様式3

学 校 番 号

67

令和 3 年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立大川樟風高等学校 （全日制）

自己評価

学 校 運 営 計 画 （4月）			評　価（総　合）
学校運営方針	大川市唯一の高等学校として、「志学・創造・貢献」の校訓のもと、何事にも全力で取り組み、地域を支える有能な人材の育成を目指し、地域に根ざし、地域を愛し、地域に愛される学校づくりを目指す。		
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
[成果] ・コロナ渦であったが、各分掌や学年が協力し、生徒の進路実現や部活動、資格取得等実施していくことができた。 ・タブレットの利用やZoomなど活用し、ICT化を進めていくことができた。 [課題] ・職員生徒一丸となった生徒募集活動や情報発信を行うとともに、他校種や地域との連携を強化。（小中高大連携） ・3観点別評価（『知識・技能』『思考・判断・表現』『主体的に学習に取り組む態度』）を実施し、「確かな学力の定着・向上」に繋げられるような評価。 ・部活動やボランティア活動等の諸活動を通した自己肯定感の涵養。 ・キャリアパスポートの活用とキャリア教育充実のための適切な情報提供を実施。	1 キャリア教育の更なる充実 （進路の手引きの有効活用、着実な進路実績、スタディサプリの有効利用）	○段階を追ったキャリア教育の推進 ○進路の手引きを活用した積極的な進路指導 ○特別支援教育の充実のための方策 ○生き生きとした授業や有意義な課外 ○各学科・コースの特色ある活動の実施	
	2 ICT教育の推進 （授業が変わる、授業が分かる、学力アップへの道！）	○ICT機器を活用した授業の工夫改善 ○ICT機器に対するスキルアップ ○確かな学力の育成を目指し、わかる授業の工夫改善	
	3 魅力ある放課後づくり （部活動、資格検定取得）	○生徒会を中心とした学校行事や生徒会活動の充実 ○部活動の活性化及び中学校等の交流 ○部活動参加率・資格検定合格率の増加	
	4 自分磨き （笑顔で挨拶、爽やかな清掃、ボランティア活動）	○人間としての在り方・生き方に係る道徳性の涵養 ○いじめや差別のない人権教育の徹底 ○安全に対する意識を高揚させ、校舎内外の環境整備 ○「立ち止まり・一礼」運動による礼節指導の徹底 ○端正な服装・頭髪指導による規範意識の確立 ○保護者と学校が一体となった教育活動（校外指導等）の展開 ○地域行事や活動へのボランティアとしての積極的な参加	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務	ICTの積極的な利用を図りつつ主体的・対話的で深い学びの推進及び、授業改善や、基礎学力の定着と発展的な学習につながる知識の理解、技能の習得	ICT活用を円滑に進めるため、電子黒板設置教室の予約を学校ポータルで行う。				
		スタディサプリの活用の仕方について、キャリア教育課と連携しつつ授業の充実に努める。				
		観点別評価等を活用し、生徒の実態に応じた公正な評価を行い、基礎学力の向上につなげる。。				
	授業規律の確立	″chime to chime″を励行し、教員・生徒ともに授業を大切にする姿勢を育成する。				
	確かな学力の定着・向上のための家庭学習時間の確保と学習習慣の確立	キャリア教育課、各教科、学年と連携し、家庭学習時間調査（各考査前）を分析・活用することで、自ら学ぶ姿勢や学習習慣の醸成に努める。				
	観点別評価・教務規定の見直し	3観点による観点別評価の基準を作成する。				
		3観点による観点別評価にあわせて、年間授業指導計画・教務規定を改定する。				
	教務関連の事務効率化	統合型校務支援システムの円滑な運用に努め、先生方の教務関連の事務処理の効率化を図る。				
企画調整	他分掌との連携	他分掌と連携して、学校行事における企画補助を行う。具体的には、図面作成や掲示物等の作成・管理を行う。				
	行事予定作成のための的確な情報収集	教務課・生徒指導課・キャリア教育課をはじめ、各部署と連携し、正確な日程・情報を収集し、月ごとの行事・授業予定表を、余裕をもって配布する。				
	PTAとの連携	PTAとの連携を深め、本校の支援体制を充実させる。具体的には、マラソン大会での炊き出しや、PTA新聞「くすのき」の発行等を行う。				

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

生徒指導	キャリア育成部や各学年等との連携を図り、進路実現を根底に置いた指導を徹底する。立止り一礼挨拶を徹底する。（相手を思いやった挨拶、心のこもった挨拶を目指す。）校内外における徹底した身なり指導を全職員で行う。交通マナーの向上を図り、自他の生命の尊重ができる態度の育成を図る。	キャリア育成部や生徒募集部等と連携を図り、職員への進路実現を根底に置いた生徒指導意識の共有と中学生へのアピールポイントとして活用できるようにする。コミュニケーション能力の向上を目指し、相手に応じて敬語を正しく使う指導を徹底する。樟あっぷ運動をより充実した形で継続し、全職員での身なり指導を展開する。挨拶の意義を様々な学校生活の場面で理解させ、生徒の自発的な挨拶をさらに充実させていく。交通安全教室などの充実を図り、生徒会活動などから生徒たちの主体的な呼びかけを行わせるよう指導していく。						
	生徒主体型の学校行事を充実させ、樟風の特色や生徒の良さを地域に明確にアピールできるものを全生徒・職員の協力のもと創り出す。	学校行事や部活動などの活動を、生徒会などを中心とした生徒主導で実施させる機会を増やしていく。新型コロナウイルス感染症防止のため外部への発信は、HPやインスタグラムを活用し、学校のよいPRの場面となるよう更なる充実を図る。また、考査前期間の登校時間帯を利用した交通委員会による登校時の駐輪指導を通じ施錠の徹底などの指導を行なう。						
	生徒主導による各部活動の推進や生徒会を中核とした各種委員会などを活性化し、積極的で活気ある活動を展開する。	部活動の活性化のため顧問を複数人制で組織することにより、毎日の部活動に顧問が指導できるようにする。生徒会･各種委員会･部活動の活性化を図るための検討委員会を作り、校外へのアピール活動を検討し実施していく。						
保健指導	学校全体の活動を通じて美化活動に積極的に取り組み、生徒の環境美化に対する意識の向上を図る。	校内外の美化活動を徹底する。美化意識についても、感染症拡大につながる恐れがあることを理解し、美化活動に努める。						
	心身ともにバランスの取れた生徒を育成するために体と心の健康に留意した生活習慣とその方法について指導し、健康管理能力の向上を図る。	生徒の心と体の健康教育の充実を図るとともに健康管理に留意し指導へとつなげる。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、手洗い、うがいの徹底を図る。さらに、夏季については熱中症予防に努め、予防のための啓発を行う。						
	教育相談活動の充実、様々な問題の未然防止、早期発見に努め、支援、解決を図る。	生徒が抱える様々な健康問題を未然防止、早期発見し解決に努める。						
キャリア教育	3年間を通した体系的なキャリア教育の推進	生徒の実情に応じたキャリア教育計画を作成し、キャリア教育の具体化を図ることで、生徒の第一希望進路を明確化させる。また、その実現のためのガイドブックとして「進路の手引き」やキャリアパスポートの活用や更なる充実を図る。						
	有益な進路情報の収集と発信・活用	「進路の手引き」や「進路だより」（年3回）及び各種講演会等を通して生徒の進路実現に役立つ情報を精選して発信するとともに、教員向けの新たな情報提供を行い、指導力の向上を図る。また、到達度テストや進路希望に応じた模試を活用し、以後の指導に生かす。						
	進路指導内容の整理・改善	課外授業や外部模試等のデータを集計・分析検証し、進路指導内容を生徒の確かな学力向上や希望進路実現へ向けてより有益な形へ整理・改善する。						
キャリア研修	校内研修の計画的な実施と内容の充実・専門研修等の研修機会の推進	教職員の資質向上のため、今日的教育課題や本校の実態に即した職員研修の実施と専門研修等の研修機会を随時提供する。						
	人としての生き方を考え、豊かな心を育む「樟風の10分間」の推進	弁論部と「樟風爽やか講話」、文化委員会とWeekly News Digest、図書委員会と「朝の読書」を協力して実施する。						
	実習生の人間形成と教師の資質向上を目指した教育実習の実施と担当者の指導力向上の推進	教育実習を計画的にすすめ、実習生の人間形成と教師としての資質向上につながるように担当教員で協力しながら指導する。						
	ICTを活用した研究授業とAL(アクティブラーニング)を推進した研究授業の計画・実施	「新課程を踏まえた各教科の取り組みについて」各教科で立て、「授業が変わる。授業が分かる。学力アップへの道！」へとつながるように授業改善を推進する。						
	授業アンケート・授業参観週間での授業評価の実施と各教科の課題解決の推進	「新課程を踏まえた各教科の取り組みについて」各教科で立て、その取り組みについて授業アンケート・授業参観週間を活用し、課題を発見し授業改善へとつながるように推進する。						
生徒募集	本校生徒の活躍や学校生活の様子の効果的な情報発信（リニューアルHPの積極的活用）	リニューアルされたHPやインスタグラムを活用して、本校生徒の進路実績や資格取得状況、学校生活の様子、学校行事などを定期的あるいは随時情報発信する。						
	中学生に対する本校の特長・魅力の説明と有為な情報の提供	中学校における高校説明会や進路学習では、本校の特長や魅力の説明ばかりでなく、中学生にとって有為な情報（中学生としてやっておくべきこと、高校入試情報、高校生活とはなど）も提供していく。						
	在校生からの情報や生徒の諸活動を活用した生徒募集	本当の本校の雰囲気や様子、高校生活満足度などを伝えるのは「本校生の生の声」と考え、在校生からの情報を収集し中学校訪問に活用すると同時に、在校生自身が各自の出身中学校に訪問して本校をPRする。						

教育の情報化推進	ICT利活用の推進を行い、学校全体の学力向上を図る。	教育の情報化推進部が中心となってICTを活用した「主体的・対話的な深い学びの研究・実践を行い、全職員に拡げる」						
	ICT教育に関する情報の発信、研修やサポートを行うことにより職員のスキルアップを目指す。	研修課と協力して、各教科で年に1回はICTを活用した研究授業を行う。						
	ICT利活用のための、環境整備を実施する。	ICTや特別教室等の利用環境の整備を行う。						
1学年	基本的生活習慣および規範意識の確立	身だしなみや挨拶の励行を、3年後の社会人としてのあるべき姿の完成形の基礎作りとして生徒自身が意識するよう指導する。						
		教務企画部及びキャリア教育部と連携し、遅刻・欠席をしない意識と態度を育てる。						
		清掃活動を徹底することで、学ぶ環境、共有する環境をつくり、他者を思いやる気持ちを涵養する。						
		養護教諭、SSW、SC及び保護者との連携を密にし、生徒一人ひとりの情報を共有し、課題の解決を図る。						
	授業規律の確立	教科担当者と担任が情報交換を密にし、粘り強く指導しながら課題の提出を徹底する。						
		朝読書を通じて、学習への集中力を養うとともに、他者への配慮の意識を高める。						
		授業の開始・終了を遵守し、挨拶をきちんと行うことでけじめのある授業を行う。						
		学習環境を整える。定時制との共有教室であることを意識させ、終礼後は机の上や中に物を置かせない。						
	基礎学力の充実	クラスや生徒個々の学習面の実態を鑑み、授業を通じた基礎・基本の習得及びわかる授業のための工夫を心掛ける。						
		様々な物事を主体的に思考する姿勢を身に付けさせ、物事を論理的に表現する機会を設ける。						
		成績不振者に対する補講等を計画的に実施する。						
		集会時に最後まで顔を上げて話を聞く姿勢を養う。						
	進路意識の育成	キャリア教育課との連携を深め、3年間を見通した計画的な進路学習を行うことで、進路意識の向上を図る。						
		様々な物事を主体的に思考する姿勢を身に付けさせ、物事を論理的に表現する機会を設ける。						
		成績不振者に対する補講等を計画的に実施する。						
		集会時に最後まで顔を上げて話を聞く姿勢を養う。						
2学年	主体性の確立と基礎学力の定着	出席常を意識し、安易な遅刻、欠席をしない意識と態度を育てるとともに、 手帳を活用し、記録することで、実行に移す自己管理能力を育てる。						
		平素の授業を規律と活気あるものとし、学力の向上に努め、成績不振者に　対する個別指導や補講等を計画的に実施する。						
		教室の整理整頓および清掃の充実を通して、学習環境を整える。						
		それぞれの進路に応じた学力補充を行うとともに、積極的に参加する。						
	規範意識と協調性の確立	頭髪服装規定等の校則が持つ意義を理解させ、身を律する態度に繋げさせる。						
		授業や学校行事で協働活動を取り入れる中で、協調性を涵養する。						
		学校行事や部活動への積極的な参加を促し、学校生活に達成感や充実感を感じることができるようにする。						
		挨拶の励行を通じて、他者との関わりやマナー意識を向上させ、より豊かな学校生活に繋げていく。						
	進路意識の育成	キャリア教育課と連携し、2年間を見通した計画的な取り組みを行うことで、進路意識の向上を図る。						
		学年通信や進路便りを活用し、保護者との情報共有を図る。						
		HR活動や学年集会を活用し、進学・就職の推薦規定や合格、採用条件について　理解させる。						

3学年	進路実現に要する学力の育成	平素の授業や課外において、多岐に渡る進路に合わせた内容を学び、進路実現を成し得る力を身に付ける。						
		各学科における資格取得を各科で奨励し、より高次の取得に向けて授業や補講などで対策をとり、その資格取得を目指す。						
		外部の模擬試験を指針として、志望する大学入学試験の合格ラインを越えられる学力を身に付ける。						
		個人面談を適宜行い、生徒の希望と能力を常に把握し、より個々に対応した指導助言を行う。						
		担任会や学年会などを利用すると同時に、各教科担当にも協力を仰ぎ、情報交換を密にして成績向上のための指導に繋げる。						
	生涯を逞しく生きるための自己教育力と忍耐力の育成	遅刻や欠席については個々の状況に応じたきめ細かい指導や説諭を行うことで生活習慣が乱れないようにする。						
		社会人としての在り方を常に意識して、主体的に身だしなみを整える。						
		校内での立ち止まり一礼や授業時の挨拶を励行する。						
		授業や集会時に話を聞く姿勢を保ち、内容を理解し自己啓発に繋げる。						
		HRや学年集会を利用し、自己分析やキャリア開発を行い将来の在り方を考える。						
	実社会で求められる主体性、協調性の育成	学校行事を中心となり企画・運営し、その都度の目標設定とその実現に向けて全生徒が真摯な態度で取り組み成就感を味わい協調性を身に付ける。						
		部活動を最後までやり抜くことで協調性や忍耐力を身に付ける。						
		委員会活動や各クラスの係の仕事などを主体的に取り組む、その責務を果たす。						
		授業やHRなどでグループ学習を取り入れたり、面接指導を行う中で、コミュニケーション能力を養い、他の意見を傾聴し思考する契機とできる力を身に付ける。						
普通科	2年次以降の学系の特色について生徒や保護者に十分に周知し、生徒の希望進路や適性に応じて選択できるよう指導を行う。	学科学系別集会で利用できる資料の作成と保存を行い、系統的な取り組みを行う。						
		学系選択にあたっては、早期に説明会を開催し、生徒・保護者が希望進路や適性に応じて選択できる期間を保障する。						
	学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。	学年・教科との連携を密にし、生徒の実態を正確に把握し、効果的な取り組みを行う。						
		校外模試等を有効に活用し、学習意欲と学力の向上に繋げる。						
	早い段階から進路意識の高揚を図る。	個人面談による進路相談や面接指導、作文（小論文）指導等を計画的に実施する。						
		総合的な探究の時間やHR活動等を通して、健全な職業観の育成を図る。						
		社会人に相応しい服装やマナー指導を徹底し、コミュニケーション能力の育成を図る。						
	希望進路実現のため、資格取得を奨励する。	各教科と連携し、学習意欲と学力の向上に繋げるための資格取得を奨励する。						
		授業や課外、放課後の学習会等を活用して、検定合格率を上げる。						
住環境システム科	専門教科（実習等）を通した「ものづくり実習」の充実	ものづくりのマイスター実習制度を積極的に取り入れ、ものづくりへの興味・関心を喚起し、より実践的な実習を行い、ものづくりを通しての人づくりを目指していく。						
	産学官連携事業の更なる推進と専門性への目的意識を高め、将来の進路選択の一つとする。	産学官連携産業人材育成事業を通して、各専門教科への興味・関心や進路意識を深め、より高い専門意識を持たせる。						
	積極的な資格試験の受験と実用的な資格試験の導入を行う。	専門性への目的意識を持たせ、実社会に通用する資格を導入し、より多くの合格者を目指す。また、より多くの生徒が専門性を生かした進路を考えることに力を入れる。						

文理科	学習習慣の確立	課題の確認、小テストの内容や定期的な面談により、指導助言を行うことで学習習慣の定着化を図る。						
	希望職種に基づく大学進学の意義の理解	将来のビジョンを描き、大学で学びたいことを自己探求する機会を作り、具体的な目標設定と、実現するための取り組みを主体的に考え実践する。						
	基礎学力の定着と応用力の養成	学習方法を各教科においてチェックしながら、正しい学習方法を身に付ける。また、スタディサプリを有効に活用しながら、個に応じた主体的な学びに繋げられるように基礎作りを行う。						
	大学入学共通テストに対応する指導の充実	授業や課外、その他教育活動全般で「思考力」「判断力」「表現力」を涵養し、一般選抜でも課される記述力対策の機会を充実させる。						
	進学意識の喚起と実現に向けた指導体制の構築	担任からの情報発信や模試分析などにより、キャリア教育課、教科担当、担任で情報を共有し効果のある学習支援を行う。						
事務室運営	教育重点目標達成のための事務室業務の推進	教育重点目標を意識した、効果的な予算編成・執行を行う。						
		各分掌との情報共有を推進し、教育重点目標を達成するための事務処理を行う。						
		生徒、保護者及び来客への対応や電話応対を丁寧かつ的確に行う。						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・

評価項目以外のものに関する意見